

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで、生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティーネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

- ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取組みを推進する。
- イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。
- ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を令和7年度まで85%を維持する。(R2:79% R3:95% R4:89%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善に努めている」の肯定率を令和7年度まで90%を維持する。(R2:70% R3:95% R4:90%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」の肯定率を令和7年度まで85%を維持する。(R2:77% R3:78% R4:89%)

## 2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

- ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。
- イ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒に理解を深めさせる。
- ウ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。

※教員向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和7年度まで90%を維持する。(R2:96% R3:100% R4:90%)

※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を令和7年度には85%とする。(R2:65% R3:76% R4:83%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路の情報を知らせてくれる」の肯定率を令和7年度まで85%を維持する。(R2:74% R3:83% R4:89%)

※保護者向け学校教育自己診断における「進路の情報を知らせてくれる」の肯定率を令和7年度まで90%を維持する。(R2:50% R3:78% R4:100%)

※学校斡旋の就職内定率を令和7年まで90%以上を維持する。(R2:50% R3:100% R4:100%)

## 3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

- ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校行事に楽しく取り組んでいる」の肯定率を令和7年度まで85%を維持する。(R2:67% R3:72% R4:86%)

※教員向け学校教育自己診断における「主体的な活動の支援」の肯定率を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2:82% R3:91% R4:90%)

※生徒向け学校教育自己診断における「あいさつができてきている」の肯定率を令和7年度まで90%を維持する。(R2:69% R3:88% R4:90%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 心豊かな「社会の一員」となるよう、地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。
- ウ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「人権学習の機会」の肯定率を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2:85% R3:90% R4:96%)

※教員向け学校教育自己診断における「人権尊重の生徒指導」の肯定率を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2:87% R3:86% R4:100%)

## 4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。
- イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を令和7年度まで85%を維持する。(R2:78% R3:86% R4:90%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を令和7年度まで80%を維持する。(R2:57% R3:71% R4:90%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

- ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。

(3) 業務改善を通して、働き方改革を進める。

☆ これらの取組みを通して、単位修得率の向上を図り、卒業率を高めるとともに、中学校夜間学級出身者や編入学・転入学等の生徒の学びなおしの学校としての機能を高める。これにより、セーフティーネットの学校として安定した納税者を生み出すことで大阪府に貢献する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○回答者数 生徒：75名、保護者：9名、教職員：17名</p> <p>○肯定率の高い項目・高くなった項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒：この学校には、他の学校にない特色がある。《94.7%》</li> </ul>	<p>○第1回 令和5年7月21日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明中の生徒の写真がみんな非常にいい顔をしている。安心して学校に通える取組みをしていると思う。授業規律については、これからしっかりと取り組んでほしい。</li> <li>・とても特徴的で生徒のニーズに合わせたきめ細かな教育を実践されていると思う。</li> <li>・夜間学級で通われている生徒さんはもともと高齢の方が多いが、今はネパールの方々がたくさん来られており、定時制も含めた高校への進学を希望している。</li> </ul>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）  
府立桃谷高等学校 定時制の課程

- ・保護者：他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。《88.9%》
- ・教職員：生徒や保護者のニーズにあった特色がある。《94.1%》

「教育活動に対する項目」

- ・生徒：学校へ行くのが楽しい。《82.7%》  
授業はわかりやすく楽しい。《92.0%》  
みんなが楽しくおこなえるよう学校行事の工夫。《97.2%》
- ・保護者：授業がわかりやすく楽しいと言っている。《88.9%》
- ・教職員：分かりやすい授業をつくる努力をしている。《100%》  
学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている《100%》

「学校に対する項目」では、特色に関する項目で肯定率が高かった。完全単位制という他の学校にはない特色が生徒や保護者のニーズにあっているという結果になった。この特色を活かすことができるよう教育活動の工夫・改善をしていくことが必要である。

「教育活動に対する項目」では、昨年度と同様に生徒と保護者から「学校や授業が楽しい」などの項目が高い肯定率を示した。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業や学校行事の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。

○ 肯定率の低い項目

「学校に対する項目」

- ・生徒：地域の人々とかかわる機会がある。《75.7%》
- ・保護者：授業参観や学校行事に参加したことがある。《11.1%》
- ・教職員：地域の人々と接する機会を持っている。《41.2%》

「教育活動に対する項目」

- ・生徒：自分の考えをまとめたり、発表することがある。《80.0%》
- ・保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。《66.7%》
- ・教職員：他の授業見学などを行い授業改善に努めている。《70.6%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「保護者の行事への参加」の肯定率が低い結果となった。昨年度と比べ地域との連携は教員、生徒ともに肯定率は上昇したが、まだまだ低い数値ではある。さまざまな課題に対して生徒が社会参画の経験ができる取り組みを検討していく。他にも「教育情報の提供」や「進路情報」「家庭との連携」の項目の肯定率が減少していたので、進路情報を含めた学校情報をホームページ等の紹介や活用、保護者と担任の連携を強化することで保護者の行事参加へつながるのではないかと考えられる。

「教育活動に対する項目」では、生徒の項目は全体と比べると低い数値ではあるが、昨年度よりは改善することができた。教員「授業改善に努めている」の項目は減少している。今年度は教員定数が減になり、生徒指導や校務の負担も増え、他の教員の授業見学をする余裕が少なくなったのではないかと考えられる。

○ その他

- ・生徒の自己診断結果については、半分以上の項目において肯定率が90%を超えている。肯定率の高い項目は教職員の自己診断の結果ともリンクしており、教職員が取り組んでいることがしっかりと生徒へ伝わっていると考えられる。また肯定率の低い項目については、一番低い項目でも75.7%となっている。どの項目も昨年度に比べると改善傾向にある。今後も特に授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間を工夫・改善していくことが必要になってくると考えられる。
- ・保護者の自己診断結果については回答率が低く、十分に実態が反映されていない懸念がある。次年度以降、より回収率を高める工夫をしたい。
- ・教職員の自己診断結果については、全項目の肯定率平均が93.1%と非常に高い。この結果は単年度のものではなく中長期的な取り組みのもので表れたものである。今後、質問項目をより実態に合致するように変更を加えつつ、さらなる課題分析や改善に努めたい。

・生野区のものづくりの力を強く発信するために、オープンファクトリーで一般の方に見てもらおうと思っている。キャリア教育の一環に生徒さんにぜひオープンファクトリーに参加してほしい。町工場の社長さんに聞いても定時制の生徒にぜひ来てほしいとの要望を聞いている。

○第2回 令和5年11月29日（水）

- ・日本語は習得が難しい言語であるが、クラスにおいてどんな取り組みをしているのか。  
→文字の翻訳や「やさしい日本語」でなんとかカバーしている
- ・授業開始の時間の前に部活などをする時間を確保できればどうか。正社員で働いている生徒も少なくなっているので授業前の昼間に日を浴びることも大切であると思う。
- ・ダイレクトで入学する生徒の通訳状況や日本語指導の必要な生徒にはどのように対応しているか。  
→大阪府の教育サポーターの制度を使って現在4カ国語の通訳を年に数回行っている。英語ができる生徒もいるので英語で話すことも多い。日本語指導を生徒のレベルにあわせて授業をしているがすべて非常勤講師が授業を行っている。また少し日本語ができる生徒に通訳をお願いすることもある。

○第3回 令和6年1月31日（水）

- ・日本語指導の取り組みはどのようにしているか。  
→「特別の教育課程」による日本語指導を1年次から行っている。
- ・卒業後の進路が決まっていない生徒がいるので、より具体的に進路指導を行っていく必要がある。
- ・日本語指導を1年次から充実して行えるのは桃谷高校定時制の強みである。苦勞していることはないか。  
→教育サポーターと保護者等のスケジュール管理が煩雑である。生徒の日常生活面での相談が多く対応が困難であった。

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）  
府立桃谷高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1)「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取組みを推進する。</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。</p> <p>ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・観点別学習状況評価の充実や1人1台端末を活用した授業づくりのため、「授業研究チーム」を核として、組織的に取り組む。</p> <p>イ・教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげるため、研究授業や授業見学期間を設定、活用する。 ・教員の授業力を高めるため、観点別学習状況評価や1人1台端末の活用など、テーマを絞った授業を校内で公開する。</p> <p>ウ・「授業規律」に対する生徒の意識向上を図るため、全教員が共通認識を持って、スマートフォン使用や私語などに対する指導を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」肯定率80%[76.7%]。「1人1台のタブレットを使って学びを進める機会がある」肯定率90%を維持[97.2%] ・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率90%を維持[100%]。</p> <p>イ・教員相互の授業見学期間を2回以上設定する。 ・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学などを行い授業改善に努めている」肯定率90%を維持[90.0%]。「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」肯定率90%を維持[95.0%]。「生徒1人1台端末が、各教科の授業などで活用されている」肯定率90%を維持[95.0%]。</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」肯定率85%を維持[88.9%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業で自分の考えをまとめ発表する」肯定率80.0% (○) ・「1人1台のタブレットを使って学びを進める機会がある」肯定率90.7% (○) ・「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率94.1% (○)</p> <p>イ・教員相互の授業見学は2回実施 (○) ・「他の教員の授業見学などを行い授業改善に努めている」肯定率70.6% (△) ※空き時間が少なく相互の授業見学を行う余裕が少ない状況である。次年度以降改善が必要。 ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」肯定率100% (◎) ・「生徒1人1台端末が、各教科の授業などで活用されている」肯定率94.1% (○)</p> <p>ウ・「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」肯定率93.2% (◎)</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。</p> <p>ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。またそのための、生徒支援体制を充実させる。</p> <p>イ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒理解を深めるため、家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や、懇談週間を設定し内容を明確にした生徒懇談などを行う。 ・長期欠席等の生徒について、個々の状況の把握と生徒の学びの見通しを明確にするため、事務室と連携を取りつつ家庭連絡や家庭訪問などを行う。 ・外部人材や外部機関と連携して生徒支援の充実を図るため、SCやSSW、居場所事業を活用する。</p> <p>イ・進路に対する意識を高めるため、キャリアパスポートを活用する。 ・教員間の勤労観職業観に関する共通理解のもと、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導、進路HRなどを実施する。 ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する。 ・すべての生徒や保護者に対する情報も含めた進路だよりを定期的に発行する。 ・進路説明会を、卒業が近づいてきた生徒以外の生徒やその保護者にまで対象を広げて実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」肯定率90%を維持[93.1%]「教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある」肯定率80%を維持[83.1%] ・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」肯定率90%を維持[90.0%]。「ケース会議などを通して生徒ひとりの課題について教員が向き合っている」肯定率90%を維持[100%]</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」肯定率85%[75.0%] ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」肯定率85%を維持[90.3%]「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%を維持[88.9%] ・保護者向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率90%を維持[100%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「相談に親身になって応じてくれる先生」肯定率89.3% (△) ※0.7ポイントの未達であるが日常的に教員は生徒の相談に親身に応じている。 ・「教室以外の落ち着ける場所」肯定率80.0% (○) ・「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」肯定率100.0% (◎) ・「ケース会議などを通して生徒ひとりの課題について教員が向き合っている」肯定率100% (◎)</p> <p>イ・「望ましい勤労観職業観がもてる進路指導」肯定率100.0% (◎) ・「将来の進路を考える機会がある」肯定率94.7% (◎) ・「進路情報周知(生徒)」肯定率91.9% (◎) ・「進路情報周知(保護者)」肯定率55.6% (△) ※昨年度の反省から今年度はより系統的な進路指導を行うことができた。保護者については成人生徒も多く、その保護者にまで十分に周知が行き届かなかったことに加え、回答率が低かったことも肯定率の低下に影響しているものと考えられる。以後調査方法も含めて改善したい。</p>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）  
府立桃谷高等学校 定時制の課程

	ウ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。	ウ・進路指導の充実のために、外部人材や外部機関を有効に活用する。	ウ・学校幹旋の就職希望者の内定率 90%以上を維持[100%]	・学校幹旋の就職希望者の内定率 100% (◎)
3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成	(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。	(1)	(1)	(1)
	ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。	ア・生徒に「学校に行くのが楽しい」とより感じさせるため、引き続き学校行事や部活動の充実、活性化に取り組む。 ・総合的な探究の時間や LHR の実施内容や実施方法を、生徒の学校への帰属意識がより高まるようなものとする。 ・多くの生徒が参加できるよう、学校行事の充実に引き続き取り組む。 ・始業式や終業式、生徒集会の場面や校内掲示板等を活用して「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行う。	ア・生徒向け学校教育自己診断 「学校に行くのが楽しい」肯定率 80%[77.8%] 「学校行事に楽しく取り組んでいる」肯定率 80%を維持[85.7%] 「部活動に楽しく取り組んでいる」肯定率 85%[84.8%] ・教職員向け学校教育自己診断 「主体的に活動できるよう学校全体で支援している」肯定率 90%を維持[90.0%] 「部活動の活性化について工夫している」肯定率 80%を維持[85.0%]	ア・「学校に行くのが楽しい」肯定率 82.7% (○) ・「学校行事に楽しく取り組んでいる」肯定率 82.7% (○) ・「部活動に楽しく取り組んでいる」肯定率 78.9% (△) ※活動が盛んな部活は成果もあげ充実した活動ができている。今後は部員の少ない部活を含めての全体の底上げが必要。 ・「主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率 88.2% (○) ※生徒の満足度も高く教職員も可能な限りの支援をしている。 ・「部活動の活性化について工夫」肯定率 100.0% (◎)
	イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。	イ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「あいさつ運動」に取り組む。	イ・生徒向け学校教育自己診断 「あいさつができている」肯定率 90%を維持[90.3%]	イ・「あいさつができている」肯定率 89.3% (△) ※0.7 ポイントの未達であるが、登下校時や校内のあらゆる場面で生徒も教員もおおむね挨拶を励行している。
(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。	(2)	(2)	(2)	
ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。	ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・生徒が卒業までに多様な人権課題をバランスよく学習できるよう、過去の人権 HR をふまえた今年度の人権 HR を企画立案する。 ・合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導を行う。 ・道徳教育の側面からも学校全体として人権教育にアプローチできるという観点で、道徳教育推進教師を中心に作成した道徳教育の全体計画を周知する。	ア・生徒向け学校教育自己診断 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」肯定率 90%を維持[95.8%] 「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」肯定率 90%を維持[91.5%] ・教職員向け学校教育自己診断 「人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」肯定率 90%を維持[100%]	ア・「人権の大切さについて学ぶ機会がある」肯定率 94.7% (○) ・「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」肯定率 93.3% (◎) ・「人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」肯定率 100.0% (◎)	
イ 心豊かな「社会の一員」となるよう、地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。	イ・卒業までに多様な価値観に触れることができるよう、授業やホームルームなどにおいて、外部人材とのかかわることのできる機会をもつ。 ・地域との信頼関係を築くことができるよう、地域の方を招くなど地域を意識した授業づくりや学校行事等に取り組む。 ・保護者や家族との連携を深めるため、SNS による情報発信とともに、保護者や家族の方が参加しやすい学校行事づくり等に取り組む。	イ・生徒向け学校教育自己診断 「授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある」肯定率 85%を維持[86.1%] 「授業や部活動での活動を通して地域の人々とかかわる機会がある」肯定率 75%[72.9%] ・教職員向け学校教育自己診断 「この学校は地域の人々と接する機会を持っている」肯定率 50%[30.0%] ・保護者向け学校教育自己診断 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」肯定率 50%[36.4%]	イ・「授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある」肯定率 87.8% (○) ・「授業や部活動での活動を通して地域の人々とかかわる機会がある」肯定率 75.7% (○) ・「この学校は地域の人々と接する機会を持っている」肯定率 41.2% (△) ※目標値には届かなかったが昨年度に比べ地域連携は可能な限り行った。 ・「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」肯定率 11.1% (△) ※学校行事への保護者の参加は昨年同等以上であった。自己診断の回答率が低かったことが保護者肯定率の大幅な低下と考えられる。以後調査方法も含めて改善	

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）  
府立桃谷高等学校 定時制の課程

	<p>ウ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する</p>	<p>ウ・生徒の安全に関する意識の向上を図り、災害時の避難行動について理解できるように、他部・他課程との連携を意識した実践的な避難訓練を実施するとともに、訓練以外の方法での啓発を行う。</p> <p>・夜間の避難に対応できるように、校内掲示等、安全対策を充実させる。</p>	<p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」肯定率90%を維持[97.2%]</p>	<p>したい。</p> <p>ウ・「災害時の避難行動の具体的な周知」の肯定率94.7% (○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校運営体制の確立及び人材の育成</p>	<p>(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。</p> <p>ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。</p> <p>イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。</p> <p>(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。</p> <p>ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。</p> <p>(3) 業務改善を通して、働き方改革を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・緊急の場合を除き、職員会議にとりあげられる内容は運営委員会を経たものに限るようにする。</p> <p>イ・分掌会議や年次会、委員会などで十分に意見交換し、取組みに教職員の意見を反映させる。あわせて、校務の効率化を図るため、会議間の情報共有を密にする。</p> <p>・すべての会議において、議事の精選、会議資料の事前配付等を行い、1時間以内で終わるようにする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員としての基本的な力量を高めさせ、人材育成を図るため、経験年数の少ない教職員を対象としたOJTや教員の自主研修を実施する。</p> <p>・職員会議等で誰がどの研修等に参加しているかを周知するとともに、校外研修等の成果を伝達する機会を設ける。</p> <p>(3)</p> <p>・あらゆる業務が効率的で効果的となるよう、個人へ業務量や業務上の責任の分散を図るため、校内組織や校内人事の見直しを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「各種会議の有効機能」肯定率85%を維持[90.0%]</p> <p>「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率85%[75.0%]</p> <p>「分掌や年次の連携」肯定率85%を維持[90.0%]</p> <p>・原則、会議時間は1時間。運営委員会及び職員会議の平均会議時間は45分以内[約30分]</p> <p>(2)</p> <p>・経験年数の少ない教職員の悩みや思いを聞く機会（自主研修や懇話会）を年3回以上実施する。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」肯定率80%[65.0%]</p> <p>(3)</p> <p>・ストレスチェック 総合健康リスク 100 未満を維持[99]</p> <p>高ストレス判定者率 10%未満[16%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教職員が意欲的に取り組める環境にある」肯定率70%[65.0%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>・「各種会議の有効機能」肯定率94.1% (◎)</p> <p>「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率88.2% (◎)</p> <p>「分掌や年次の連携」肯定率100.0% (◎)</p> <p>・平均会議時間（運営委員会、職員会議）は40分 (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・「桃谷サロン」を年5回実施 (◎)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」肯定率70.6% (△)</p> <p>※これまで伝達研修のノウハウが蓄積されていない。仕組みづくりが必要。</p> <p>(3)</p> <p>・ストレスチェック 総合健康リスク 102 (△)</p> <p>高ストレス判定者率 16.7% (△)</p> <p>※教員定数の削減により、業務の分散も困難となり、個々の教員の負担が急激に増加したため。</p> <p>・「教職員が意欲的に取り組める環境にある」肯定率76.5% (◎)</p>